篠田錦策・佐々木高政共著「和文英訳十二講」洛陽社 1954年3月7日刊を読む

第1講 主語の選び方

1. まず第一にこれから書こうとする文の主語を選ばなければならない。主語の選び方一つで文章はいかようにもその姿を変え得るのである。例えば「おどかしたって僕の決心は変わらんよ。」という文にしても

(1) 「僕」を主語にすれば

I will not change my mind even if I am threatened. (by you or them は省略)

(2) 「君」を掘り出して主語とすれば

You cannot make me change my mind by using threats.

(3) 「脅迫」を主語とすれば

Threats won't make me change my mind.

(4) 「決心」を無理やり主語に据えれば

My mind will not change whatever threats you may make.

となる。

2. (1)これで分かるように、主語の選び方一つで書き易くなったり書き難くなったり、出来上がった英文がすっきりしなかったりするるのである。

(2)それゆえ、私達は原文の日本語をよく読んで一番適当と思える主語を発掘しなければならない。

(3)主語となる語句ほどの文法書にも説いてあるように

①原則として名詞、代名詞であり

②その他には、動名詞、不定詞、名詞節、the + 形容詞、now とか today のような時を表す語

③それから引用語句、例えば “How brave of you!” was all she could say. の文中の “How brave of you!” などであるが

④私達はこの最後の場合には余り縁がない。

(4)以下、実例について主語の選び方を検討して見よう。

1. 主語の選び方実例

そんなつまらぬことけんかで喧嘩をするなんて馬鹿だ

(1) 考え方：一主語はなんだろう。原文では文面に主語が出ていないが、述部が「馬鹿だ」となっているからハハ！主語は You だな、と思いついて You are foolish [a fool] と書き出せばよい。
* 日本語で主語が文面に出ていない場合、その主語は英文で You または I [We] に相当するのが圧倒的に多い。

(2) では、あとの「そんなつまらないことで喧嘩するなんて」はどう続けたらいいか。

① 英文法不定詞の用法で「あれを買うなんてその人は余程の金持ちにちがいない」 He must be very rich to buy that. とか、

② 「そんなことをするなんて正気の沙汰ではない」 He is crazy to do such a thing. などという用例を思い出せばもうしめたもの。英語で言うなら That is half the battle. 「半ば出来たも同然」である。

③ 「喧嘩する」は quarrel, 「そんなつまらないことで」は about [over] such trifles であるから

(3) 試訳

① A. You are foolish [a fool] to quarrel about [over] such trifles.

② これは仮主語 It をつかって次のように書き換えられる。

B. It is foolish of you to quarrel about [over] such a trifling matter.

☞ trifle は名詞、thifling は形容詞

③ 読者の中には It is time for you to go to bed. や、「あなたがあの人にお話しなすることが絶対に必要です」 It is absolutely necessary for you to talk to him. といった [for ~ to ...] の構文を思い出して of を for に換えてもいいかと問われる人があろう。それはいい質問であるが、for はこの場合つかわない。という訳は、下記のような It is のあとに列挙した幾つかの形容詞の場合は for をつかわないで of をつかうのが英語の習慣である。

④ It is { good, kind, nice, cruel, horrid,
unkind, foolish, silly, thoughtful, } of you to do so.
thoughtless, right, wrong

⑤ 更に前記 [試訳] A, B の二つの文をそれぞれ感嘆文に書き換えれば A は c に、B は d になる。

⑥ c. How foolish you are to quarrel over such a trifling matter!

⑦ d. How foolish (it is は省略) of you to quarrel over such trifles!

⑧ もう少し頭をひねって「馬鹿でない限り誰もそんなつまらないことで喧嘩はしないであろう」

と言い換えておいて英訳すれば、主語は No one となり

No one but a fool would quarrel over such trifles.

と書ける。

⑨もっと角のとれた、おだやかな言い方を用いるなら次のように言えよう。

A wise man would not quarrel over such a trifling matter.

P5 ~ 6

[コメント]

同一内容を色々異なった主語を用いて、動詞以下もそれに応じて必要な言い換えをする和文英訳の基本のキを本書で是非修得を。

— 2014 年 10 月 4 日 林 明夫記 —